

と人家がありました。5人家族のヤエサラマの家で、そこから300メートルほど坂を下りると川幅35メートルほどの佐幌川の河口に出ました。流れが急なので私たちは手を繋いで川を渡りました。

この佐幌川というのは十勝川の第5の支流で、水源は佐幌岳から来ており、この山の右後方には夕張岳があり、新冠川、沙流川なども同じ方角にあります。佐幌川の河口には人家が1軒ありました。ヤエケシユクといって元は石狩出身とのことです。

佐幌川を越えると、5人家族のイソラム家、4人家族のラヒッタコロ家があり、その東岸にはフシコサヲロ、シイ



佐幌川

清水町を流れる川。この地区は酪農が盛ん。

ベンベシという2つの小川、その方角にはラベベナ、ホネウリなど柏の林の丘が続いています。

ピラウトルナイ、ラムイタンネフの2つの小川、その向こう岸にはチブタウシベツ、マツクシマリンベツの2つの小川などがあるといいますが、この辺りはどの方角を見ても見渡す限りの平野で、その中を十勝川の本流が丘から一段低いところを曲がりくねってゆるやかな曲線を描いて流れているのが見えます。この土地は石狩よりも温暖な気候のようで、既に雪は解けてすべて消えていました。

コイチヤネシユツ、サネコロの2つの小川、そしてヌブリルイラン坂の上から四方を眺めました。およそ120キロ四方はある平野です。向こう岸のケネベツという小川、こちら側のシユブンシユエという湧水、マクンピラなどを過ぎ、佐幌川流域を約20キロ下って、川幅33メートルほどある茅室川河口に出ました。この辺りはイチリンソウがたくさん自生していましたが、アイヌが好んで食べる草です。

この茅室川は十勝川第6の支流で、その水源は茅室岳にあり、その後方には静内川の水源があり